

ち か せ かい ぼうけん
地下の世界の冒険

わたる
航 (わたる) & あめのひかり

よる ゆめ
ある夜、夢をみたよ！

こうえん あそんで
ぼくが公園で遊んでいると、

すべりだい した どかんとんねる
滑り台の下の土管トンネルに、

2 にん おんな こ うちゅうじん
2人の女の子の雪だるま宇宙人がいました！

こ
その子たちは

「ねえ！わたしたちのおうちに遊びにこない？」

といいました。

そこでぼくは、ついていくことにしました。

そこで、女の子たちが、何やらライトをとりだ

しました。光線を浴びて、ぼくも小さくなって、

ちいさいかいだん おりていきました
そして、小さい階段を下りて行きました。

すると、そこに、一件、おうちがありました。

なか はいる
その中に入ると、さらに、

ゆき うちゅうじん いえ した
雪だるま宇宙人の家の下に、

きょだい まち ゆき
巨大な町があり、そこにはたくさんの雪だるま
宇宙人が暮らしていました！！

あつた こ
そこで、会った、その子たちのおじいちゃんが
おしえて
教えてくれたこと。

しろい ちいさい ゆき うちゅうじん すうせんねんまえ
白い小さい雪だるま宇宙人は、数千年前に

ちきゅう ちきゅう
地球にきて、ずっと地球にすんでいるそう
です。

ふだん ちじょう で て
普段はあまり地上に出てこないようですが、

こんかい めずらしく
今回は珍しくでできました。



* * *

^{おんな} ^こ ^{まち} ^{あんない}
女の子たちが、町を案内してくれました！

^{がっこう} ^{9ねんせい}
学校は9年生まであるそうです。

^{おみせ}
お店もあります。

「ここでは、どうやって^{かいもの}買い物するの？」

ぼくが^{きく}聞くと、^{おんな} ^こ女の子たちは、

「^{もの}物と、^{こうかん}交換するんだよ。なんでもいいの。」

ちいさい おすなほ わすれて
小さいとき、お砂場に忘れていったスコッ

ひろって
プを拾っておいたよ。はい。それから、石と
ミミスも^{^^}」

いし ひと
ぼく「石はきれいだから、ほしい人がいる
かもしれないけど、ミミスは、ほしい人が
いるのかなあ・・・」

ゆき だいじょうぶ ちきゅう めずらしい
雪「大丈夫。地球のものは、珍しいから、
なんでも大人気だよ！」

こうえん すなほ ちいさいとき
ぼくが公園の砂場で小さい時になくしたス
おかね かわり
コップがお金の代わりになるんだって！

いし た おみせ
石やミミスも。^{^^}それで、他のお店でお
かい
買いものができるんだよ。

ゆき 雪だるまちゃんたちのおうちに^{もどる}戻ると、

その子^こたちのおじいちゃんが、

「もう出^{しゅっぱつ}発じゃ」といいました。

いす 椅子の^{かたち}形の^{うちゅうせん}宇宙船に乗って、^{たべもの}食べ物を^{すこし}少し

だけ^{もって}持って、^{うまれたほし}生まれた星に^{もどるん}戻るんだって！

ぼく・^{ゆき}雪「さようなら～」

ぼく「さみしくないの？」

^{ゆき}雪「うん。^{わたし}私たちも、^{べんきょう}ここで勉強がお
わったら、かえるからね。ちょっとのあい

だ^{わかれ}だけお別れなの。」

それから、ぼくとその子^こたちは、^{みた}見たこと

もない「おもちゃ??」で遊びました。

おにごっこ
鬼ごっこもしました。

ここでは、遊びながら、ベンキョウするん
だって。大人も、子供も。

ちじょう じゅうすうかいだて ゆき うちゅうじん たてもの
地上の十数階建は、雪だるま宇宙人の建物

だと、100階建てになる
100階建てに成るそうです。

この世界は、まだ下があるんだよ。

ぼくはここで、雪だるまちゃんたちと別れ
て、

もっと下に行ってみることにしました。

そのとき、^{ゆき}雪だるまの^{どろぼう}泥棒？が^{ぬす}バナナを盗
んで、みんなに^{おいかけ}追いかけていたようで
す。でも、みんな^{かお}お顔が^{わらっ}笑っていて、たの
しそうです。ふしぎだね。だれも^{おこら}怒らない
んだよ。

もっと^{した}下のトンネルまで^{むかう}向かう^{いりぐち}入口まで、
^{ゆき}雪だるま^{おくって}ちゃんたちが送ってくれました。

^{ゆき}雪「じゃあね。ここで^{わかれ}お別れ。私たちは、
ここから^{さき}先へはいけないの。」
ぼく「さようなら」

した
下におりるトンネルをとおって、ずんずんすす
んでいきます。

すると、びっくり！きょうりゅう
恐竜がたっています。

しゅちょうりゅう
首長竜だよー。すごーーい。

ぼく「おむかえ
お迎えにきてくれたの？」

ザウルス「はい。おまちしていましたよ。」

ぼくは、おれいに、リュックの中のなか
クッキーをあげました。

ザウルス「きょうは、きてくれてありがと
う。じつはおねがい
お願いしたことがありますし
て・・・。」

ぼく「なあに？」

ザウルス「この飾^{かざり}いを、私^{わたし}のあたまにのっ
て、天井^{てんじょう}に付けて^{つけて}ほしいんです。」

それは、金色^{きんいろ}のとってもきれいな鶴^{つる}のかざ
りです。とてもたいせつなものなんだって。

こまかい仕事^{こまかいしごと}だから、細い指^{ほそいゆび}をもった、人間^{にんげん}の
こども
子供^{こども}しか、できないんだって。

ザウルス「これをつけたら、『かんせい』す
るんですよ。ながーーい、ながーーー
あいだ^{あいだ} 私^{わたし}たちは、ずっとまっていたんで
す。」

なにをまっていたのかな？

ぼくは、ザウルスのあたまに^{のって}乗って、トン

ネルのさらに奥の方へ進みます。

やがて、とっても広——い洞窟についたよ。

ザウルス「あそこです。」

ぼくは、その天井に、その飾りを付けました。

そしたら、他の恐竜もでてきて、全部で大きいのが2頭、小さいのが3頭いました。

それから、ぼくが、今まで見たこともない、不思議な生き物がいました。



ザウルス「さあ、おいわいです！」

^{つぎ} ^{どうくつ} ^{あんない}
次の洞窟に案内されて、

そこには、^{たくさん} ^{ごちそう}
沢山の御馳走がならんでいまし

^{あまい}
た！！甘いケーキがたくさん・・・でも甘^{あま}
ぎて、ぼくはあんまり好きじゃないな

あ・・・。

^{さいご}
最後にからいのがでてきました。

これはおいしい！！

さて、おなかがいっっぱいになって、

^{ねむく}
眠くなりました。

ザウルス「きょうは、ここに泊まっていっ
てください。」

ぼく「でもおかあさんが心配するよ」

ザウルス「大丈夫です。もとの世界では、

^{じかん}時間はほんの^{すこし}少ししか、たっていませんよ。」

^{べつ}別の^{どうくつ}洞窟がたくさんあるところへ、案内す

るための人が来ました。それは、小人でし

た。とっても親切にお世話してくれます。

びっくりしたんだけど、僕のお友達も何人

かいたんだ！みんなお仕事をてつだったみ

たい。

^{こびと}小人「おやすみなさい。今日はぐっすりやすんでください。」

^{つぎ}次の朝、^{あさ}目を覚ますと、^め^さ^ま^す素敵な朝ごはんが
^{ようい}用意してあります。

^{こびと}小人「おはよう。よくねましたか？ごはん
^た^べ^{たら}を食べたら、^{しゅ}^{っぱ}^つ出発しますよ。」

ぼく「どこに？」

^{こびと}小人「もっと奥おくに下したに、です。」

^{はん} ^{おわって} ^{ともだち}
ご飯が^{おわって}、お友達もみんな、

^{いっしょ} ^{こびと}
一緒に、小人についていきます。

トンネルはくねくねしています。

^{のりもの}
そして、乗り物がありました。

^{こびと} ^{のって}
小人「みんなこれに乗ってください」

^{ひかり} ^{とんねる} ^{とおって} ^{した} ^{すすんで}
光のトンネルを^{とおって}、さらに下に^{すすんで}

いきます！！

そこにつくと・・・。

^{しろいながいふく} ^{きた} ^{おとこ} ^{ひと} ^{おんな} ^{ひと}
白い長い服を着た、男の人、女の人、い

^{かお} ^{かみ} ^{いろ} ^せ ^{たかさ}
っぱいです。顔も髪の色も、背の高さもい

^{きょうりゅう} ^{なかよく}
ろいろです。そして、恐竜もいて、仲良く

おはなし
お話ししています。

つづく